

【バードライフ・インターナショナル】 渡り鳥の保全活動



近年、渡り鳥は生息地の損失などによってその数を減らし続け、現在では12%の渡り鳥が地球規模で絶滅を危惧されています。渡り鳥の多くの種は、渡りをするときに、特定の地域の森林や湿地等に集まる傾向があり、おおよそのルートが決まっています。その渡りルートを地域レベルで包括的にくった範囲のことをフライウェイといい、日本に飛来する多くの渡り鳥は、東アジア・オーストラリア地域フライウェイと呼ばれるフライウェイを利用しています。その地域はオセアニア、東南アジア、北東アジア、アラスカまでが対象となります。

この地域の渡り鳥とその生息地を保全するため、東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップという枠組みが2006年に発足し、現在、15か国の政府機関と16の国際機関が参加しています。バードライフ東京では、この取り組みの日本国内の事務局を担当し、普及啓発、調査研究、情報

交換等を促進しています。

この枠組みの成果の一つに、シジュウカラガンの回復事業があります。東アジア地域では、一時絶滅したシジュウカラガンですが、ロシア、アメリカ、日本の3か国共同で回復事業が実施され、2013～2014年のシーズンには日本での越冬数が、600羽を超えるまで増加していることが確認されました。安定して数を維持することができる1000羽にまで回復させることが目標ですが、その実現も間近になってきています。



シジュウカラガン ©BirdLife Library

バードライフ・インターナショナル

イギリス ケンブリッジに本部を持つ国際環境NGO。
世界120か国のパートナー団体と約280万人のメンバーとともに、
鳥類を指標にして環境保全に取り組む。
高円宮妃久子殿下が名誉総裁を務める。